

令和3年度第1回三豊市総合教育会議の開催結果概要

【日 時】 令和4年3月25日（金）10時30分～12時00分

【場 所】 三豊市危機管理センター3階 災害対策本部室

【出席者】

(1) 構成員

職名		氏名
市長		山下 昭史
教育委員会	教育長	長尾 卓也
	委員	細川 芳樹
	委員	永田 洋子
	委員	須山 貴司
	委員	松田 真喜子

(2) 事務局

職名		氏名	
政策部	部長	貞廣 慎二	
	地域戦略課	課長	開口 陽子
		課長補佐	篠原 栄司
		副主任	森 誠
教育委員会事務局	部長	西川 昌幸	
	教育総務課	課長	十鳥 武志
	学校教育課	課長	内田 さなえ
	スポーツ振興課	課長	牧 昌志

【傍聴者】 なし

【会議次第】 1 開会

2 市長挨拶

3 教育長挨拶

4 協議事項

(1) コロナ禍における学校教育について

(2) 部活動と地域クラブチームの在り方について

地域プロスポーツ団体や地元出身選手との交流について

(3) 給付型奨学金事業について

5 閉会

【議事要旨】

発言者	内容
地域戦略課 開口	<p>それでは、これより令和3年度第1回三豊市総合教育会議を開催いたします。なお会議は（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項により）原則公開することとなっておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、非公開とさせていただきます。</p> <p>それでは、はじめに三豊市長 山下 昭史よりご挨拶申し上げます。</p>
山下市長	挨拶（略）
地域戦略課 開口	<p>続きまして、三豊市教育委員会教育長 長尾 卓也様よりご挨拶をお願いします。</p>
長尾教育長	挨拶（略）
地域戦略課 開口	<p>協議事項に入る前に、本日の会議の議長の選任をお願いしたいと思います。この会議の議長は、三豊市総合教育会議規程の第3条第2項において「議長は、市長または市長が指名した者とする」となっております。市長、どのようにいたしましょうか。</p>
山下市長	<p>教育長にお願いして、会議を進行していただけたらと思いますが、いかがでしょうか。</p>
長尾教育長	分かりました。では、私が議長を務めさせていただきます。
地域戦略課 開口	<p>それでは、今回の議長に教育長が選任されましたので、これよりの議事進行については、教育長をお願いいたします。</p>
長尾教育長	<p>議長に選任されましたので、ここからの議事については私が進行させていただきます。それでは、会次第に沿って議事を進行してまいります。</p> <p>協議事項の1番「コロナ禍における学校教育について」の協議になりますが、事務局より説明をお願いします。</p>
学校教育課 内田課長	説明（略）
長尾教育長	<p>ありがとうございました。それでは、事務局からの説明が終わりましたが、本議題について市長のお考えはいかがでしょう。</p>

<p>山下市長</p>	<p>いわゆる GIGA スクール構想の前倒しの原因は新型コロナなのですが、実を言いますと、手前味噌になるかもしれませんが、ここまで対応できている自治体は近隣では三豊市くらいです。ただ、タブレットを一人一台配布していますが、持ち帰りできていないという問題があります。理由は、家庭でのインターネット環境が均一ではないということと、教員側にその準備ができていないということが大きいかと思います。ただ、今回のように緊急事態（コロナ禍）では、ある生徒は授業に出てこられる、ある生徒は出てこられないという学びの機会の不均衡が出ており、これは何としても解消していかなければなりません。三豊市は2年前から準備していましたので、できることはやっつけていこうと思っています。しかし、それでも全ての学校が実施できているかというところではありません。小・中あわせて8校くらいでしょうか。要するにそこまでのレベルです。本当に、このような緊急事態（コロナ禍）で学びの機会を保障するためには、更に進めていかなければならないと思います。</p> <p>一つよく議論になるのは、タブレットを資産とみるか、消耗品とみるかです。ノートや鉛筆と同じくらいの認識までいかないと、持って帰って壊した、となります。これは壊れるもので、それくらいは当たり前だと思えるようになっていかないと行政としては駄目だと思います。</p>
<p>長尾教育長</p>	<p>ありがとうございました。市長のご意見を伺いましたが、委員の皆さまのご意見を頂戴したいと思います。</p>
<p>細川委員</p>	<p>先ほどの事務局説明の中に180名の陽性者が出ていたとありましたが、学校でクラスターが発生しないようにと、養護の先生なんかには負担のしわ寄せがいつていると思いますが、学校から広まったということが起きないようにしなければいけません。</p> <p>各家庭での感染は、家族の都合なんかによってあり得ると思います。学校で広まったということのないように、最大限対策していかなければならないだろうと、まず思いました。</p> <p>また、市長が夜間中学の講演をされた時に、「一人の子どもも取り残さない」とおっしゃっていましたが、これは本当に大事なことだと思います。先ほどのお話にもありましたが、対面で授業を受けられる子と受けられない子で差が生まれやすいような体制がありがたいと思います。</p>
<p>山下市長</p>	<p>三豊市の小・中学校では、学校単位で無料の抗原検査を行っています。去年の夏休み明けに初めて実施した時の受診率がだいたい7割くらいでした。ただ、今回は3割にまで落ちています。これはなぜかというのと、あくまで推測の域ですが、オミクロン株の症状がそこまで深刻ではないというのと、もし</p>

長尾教育長	<p>検査して陽性だったらどうするかという保護者の思いが、分からないでもないのですが、見受けられました。</p> <p>ですから、学校から広まらないために現時点でできることは、できるだけ早く検査して、陽性者を見つけて、その子を治療し、拡散を防ぐということだけです。明日から5歳以上のワクチン接種が始まりますが、このワクチン接種も保護者からすると、受けさせるかどうかすごく悩ましいと思います。</p> <p>ワクチン接種もですが、抗原検査を受けさせるかどうかさえ二の足を踏まれる方もいらっしゃるでしょう。</p> <p>学校で陽性者が出た場合の現時点での対策について、何かありますか。</p>
学校教育課 内田課長	<p>まず、陽性者が出た旨の連絡が保健所からあった際に、濃厚接触者の特定等を受け、必要な方は市の抗原検査を受けていただいています。そして、校医とも協議をしながら、保健所からの指導もいただいて、学級閉鎖するのか、学校を閉めるのかの判断がございまして、できるだけ数日の学級閉鎖で対応し、もちろん安全を第一に考えながら、その後の対応を決定しています。ただ、続けて陽性者が出ますと、どうしても休みが長く続いてしまっていて、今までも長い所ですと9日間閉鎖したケースもありました。</p>
長尾教育長	<p>陽性者が出た場合には、学校を閉めることに二の足を踏まないように、積極的に早く対応するようにしています。</p> <p>他にご意見はありますか。</p>
松田委員	<p>この間、身内が濃厚接触者に指定されて学校に行けなかったのですが、オンライン授業を実施していただいて、遅れることなく授業を受けることができました。三豊市は早くから取り組んでいたもので、成果が出たのだなと思いました。ちょうどその時に、あまり教室に来られない子もオンラインで参加したそうで、そうした子も参加できるなら、今後も継続したら良いなと思いました。</p>
山下市長	<p>実際に、不登校まではいかないまでも登校しにくい子も、オンラインだったら顔を出さなくても聞くことはできます。そういう子が幾人かはいるそうです。</p>
学校教育課 内田課長	<p>学校の中でも教室に行けない子が、保健室や別室、自宅から授業をオンラインで受けられるので、様々な状況に合わせて活用できたらと思っています。</p>
山下市長	<p>コロナ禍がきっかけではありましたが、これは一つの学びの形として、今後</p>

永田委員

もやっていくべきだと思います。先ほどのキュビナの話もそうですが、結局、個別最適化をめざしています。キュビナはリアルタイムで「A君はここでつまづいている、B君は違う所つまづいている」というのが分かります。ですから、今までの画一的な授業ではなく、個別に苦手な部分に対応していきえるようにしたいと思います。その意味では、家庭であろうが教室であろうが共通です。

指導訪問等で学校へ行った際に、今年度の前半と後半とでは授業の在り方ですとか、アクティブラーニングの活用ですとか、そういった授業のデジタル化に関して、先生方の研修や教材研究等ですごく進んでいると感じました。また、デジタル化だけでなく、教育ではアナログの部分も大切にしてほしいと考えています。それを両方生かした成果も見られているなど感じました。毎月報告もいただいております。そういったところで三豊市の成果がでてきます。

また、今回は文書での報告だったのですが、地元の評議員をしている時に、学習や生活といったいろいろな面での成果がすごく見られました。小学校と幼稚園の両方の評議員をしているのですが、そういう部分が見られてすごく嬉しかったです。また、その中で先生方のご苦勞や工夫が垣間見られました。今年度は学校への直接の訪問はすごく減ってしまいましたが、先生方の努力はすごく感じています。

ただ、幼児教育でも同じようにいろいろな工夫をこれからも進めるべきかなと思います。

須山委員

このように様々な機器を使つての教育は見事だと思います。不登校や引きこもりの関係でも活用して、子どもたちのやる気を喚起するように対策していただければと思います。

あと、私の身内もコロナ対策で1週間ほどお休みになりました。仕方ない面もあったと思いますが、陽性者が出た場合の対応マニュアル等を作成して活用してみてもどうかと感じました。

山下市長

永田委員のおっしゃっていた幼児教育については、本当に大きな課題です。幼児を含め小学校低学年の教育にオンラインが馴染むのか、馴染まないのか。特に幼児教育の場合ですが、子どもと接する時に当たり前になっているマスク着用のせいで、子どもが表情を読み取る訓練ができないことを悩ましく思っています。透明のマスクにするべきかなど。しかし、幼稚園児がオンライン教育になるというのもどうかと思いますし、非常に悩ましいところです。そうした部分でも、本当に皆さまのお知恵をいただきながらやっていかなければならないと考えています。

	<p>我々の世代と違って、今の子は生まれながらにスマホがあって、当たり前に使えます。さっきも冗談で言っていたのですが、先生方が苦手なのだったら子どもに教えてもらえばいいくらいです。デジタル化を別カテゴリーにしてしまうのではなくて、生活の一部にしてしまうためには、教育の中でもそうですが、明らかにデジタルネイティブの子どもたちの方が詳しいわけです。我々の年代などは、いきなりスマホを突き付けられて使えと言われて、分からないままに使っています。彼らの方が遥かに使いこなせます。ですから、同じレベルでデジタル機器を使いこなせるためには、生徒と教員という区別は必要ないのかなと思います。</p>
<p>長尾教育長</p>	<p>ありがとうございました。それでは時間も限られておりますので、協議事項の2番「部活動と地域クラブチームの在り方について」および「地域プロスポーツ団体や地元出身選手との交流について」の協議になりますが、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>スポーツ振興課 牧課長</p>	<p>説明（略）</p>
<p>長尾教育長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、事務局からの説明が終わりましたが、本議題について市長のお考えはいかがでしょうか。</p>
<p>山下市長</p>	<p>今の少子化の中で学校、特に中学校の部活動が成立しなくなっています。私は、子どもたちにできるだけ多くの選択肢を用意してあげたいと思っています。今回はサッカー、バスケット、野球というプロチームがある前提の種目で、それは教える側のプロがいるということですが、これをできるだけ大きく広げていきたいなと思っています。本当に、現実問題として今の教育制度では、総体も学校単位でしか参加できません。ようやくサッカーなんかは変わりつつありますが、また、小学校のスポ少で一生懸命頑張った子が、進んだ中学校にはその部活がないということが普通に起こってきています。それでは、例えば桃田賢斗のような世界に羽ばたく能力があるかもしれない子どもたちの能力や将来をつぶすことになってしまいます。本当に学校横断型の部活動を将来的には考えたいなと思っています。これは運動系に限らず、文科系でもやりたいことです。例えば音楽であるとか美術であるとかも受け入れられる組織のようなものができたらなと思います。それに向けて、来年度はその準備に入ります。いきなり学校の部活がどうのではなく、学校の部活は継続してやるのだけれど、更にその道を極めたい、記録を上げていきたいという子を基本的には対象にしていくつもりですが、最終的には、今回の市議会でも言いましたが、部活の民間委託まで考えていきます。それだけの専門性と指導者を用意して、子どもたちを受け入れます。これは教員の働き方</p>

<p>長尾教育長</p>	<p>改革にも関わってきます。まったく競技経験のない教員が、高みをめざそうとする子どもたちの担当になった場合、お互いがかわいそうです。文化・芸術・スポーツといった様々な分野で頑張ろうという子どもたちの指導ができる専門性が必要ということでスタートしましたが、最終的には学校と、部活動のような文化・芸術・スポーツ活動を切り離してあげた方が良いのかなとも思っています。</p> <p>ありがとうございました。それでは委員の皆さまのご意見を頂戴します。</p>
<p>細川委員</p>	<p>小規模の中学校の保護者の方々が、「うちの学校では部活の数が少ない」とおっしゃっているのを聞きます。市長がおっしゃったように、プロの指導を受けるとか一緒に練習するとか、そうした機会を持つことで、その部分がかなり解消されるかと思えます。また、子どもにとって情熱を持って取り組んでいけるようにもっていくことが大切で、全員がプロの選手になるわけではないですが、その時期に一生懸命に取り組めることを作ってあげることは非常に大切です、それは子どもの生徒指導面、健全育成面からも好ましいことだと思います。</p>
<p>松田委員</p>	<p>身近でプロの指導を受けられるのは子どもたちにとって大変良いことだと思います。例えばサッカーをしていたけれど、中学校に上がったらサッカー部がないので別の部活に入ったという話はよく聞きます。学校外での活動が週に1回とかではなく、もっと回数が増えるのであれば、そちらでやっていけるのかなとも思います。</p>
<p>山下市長</p>	<p>今回、宝山湖にカマタマーレの活動拠点を置くのはなぜかという、委員のおっしゃるとおりで、サッカーのスポーツ少年団は市内に4～5チームほどありますが、中学校では7校のうち2校しかサッカー部がありません。そのため、本当にサッカーをしようと思う子は市外のクラブチームに行くこととなります。それは保護者にとっても物凄く負担となります。カマタマーレを呼んだのは、まずカマタマーレに専用拠点がなくて、試合ごとに場所を探しているような状態でした。一方、三豊市は遊んでいるというわけではありませんが、空いている場所があるので、使って良いよとなりました。その代わり、サッカーをやりたい中学生を集めて、せめて高校に行くまでの3年間は練習して、技術を向上させるように育ててほしいと。そのように、お互いの思惑が一致したので、今回はサッカーをシンボリックに取り上げていますが、このパターンを作っていきたいと思っています。委員がおっしゃったように、本当に熱心な子は毎日でも練習したいと思っていますよね。その回数はできるだけ増やしていきたいです。</p>

長尾教育長	中学校の部活の現状はいかがですか。
学校教育課 内田課長	中学生のうち約 95%の子どもが部活動に所属しています。そのうち 71%が運動部、24%が文化部の所属です。部活数は令和 3 年度ですと、多い学校で 14 部、少ない学校ですと 7 部で、小規模校ですとやはり部活数が少なく選択肢がないという状況です。また教員の側も半数程度は競技経験がありますが、残りの方については経験のない分野ということで、働き方改革の点からも検討していかなければならないと考えています。
長尾教育長	基本的に中学校の場合は、部活動全員参加を掲げています。ただ、最近になって、いくつかの学校では部活に入らなくても良いという状況にはなっています。学校によっては、学校の部活に入らず、学校外の部活に入ることを認めるという所があります。「学校の部活に入らなくても良い」だけで良いのに、わざわざ「学校外の部活に入るのを認める」と。学校が認める筋合いもないのだらうと思いますが、今後はそのあたりもフリーに、学校の部活に入りたい子は学校で入れば良いし、学校外の部活に入りたい子は外の部活に入っても良いし、家で遊んでいても良いというように自由度を増していかなければならないと思いますがいかがでしょうか。
永田委員	小さい頃から本物に触れることはすごく大切で、プロや専門的な指導を運動面にも文化面にも広げていくというのはすごいな、と感じます。子どもたちは体が運動を欲しています。とにかく走りたいと。その頃からいろいろな選択肢をもって、本物に触れて、未来を広げてほしいと思います。 また、働き方改革の面でも、いま競技経験のある教員は半数とお聞きして、先生方も大変ですし、生徒側も大変でしょう。そのため学校外の活動をうまく活用していければ良いなと感じました。
山下市長	今、三豊市でやっている学校横断型の部活動が一つありまして、「みとよ探究部」というのがあります。これは、三豊市のいろんなもの、自分が興味のあるものを調べて、それをレポートにまとめていくのですが、今年度は 9 名が所属しています。これが一つのモデルケースになっていくと思います。学校の部活にこだわらず中・高生を対象にして、例えば、三豊市はどうやったら有名になるかとか、そんなことを真面目に研究します。そこに鈴木寛さん、慶應義塾大学 SFC にいらっしゃる教育界の重鎮ですが、その方やそのゼミ生たちが参加してくれています。やりたいことのある子に対して、ゼミ生たちが「こうやったらどう？」とアドバイスをして伴走型で進んでいきます。そういうものを既に始めていまして、これも一つだと思います。 また、N 高っていうものをご存じですか。いわゆるオンライン授業しかない

	<p>学校ですが、そこに行っている子も探究部に入っていて、その子は慶應義塾大学に合格したそうです。そういう道もあるということです。ですから、今までの我々の概念とは違う道が確実に広がっていて、それも選択肢だと思います。それを早く子どもたちに提示したいと思います。それを選ぶか選ばないかは子どもたちが選択することで、ただ、選択肢が3つしかないのか10個あるのかっていうのは、歴然とした違いがあります。これが都会と田舎の違いです。若い子の未来の選択肢は増やしてあげたいと思っています。</p>
<p>須山委員</p>	<p>非常に良いことだと思います。また地域によってもそれぞれ違いがあって、例えばテニスコートにしても、旧町によって設備や環境が異なっています。そのような面でも、定期的な整備や点検を、厳しい予算の中だとは思いますが、お願いしたいと思います。</p>
<p>長尾教育長</p>	<p>地域のスポーツ団体の今後の状況や動向についてはいかがですか。</p>
<p>スポーツ振興課 牧課長</p>	<p>先ほども説明の中で申しましたとおり、4月から準備に入りますが、指導者に関しては地域の方々や情熱を持った先生、退職後の人材を人材バンクのような形で登録して、指導にあたってもらえるのも良いかという考えもあります。</p>
<p>長尾教育長</p>	<p>そのような動きになってくるのですか。</p>
<p>スポーツ振興課 牧課長</p>	<p>最初の方向性としては、その方向で取り組みたいと考えています。</p>
<p>細川委員</p>	<p>人材バンクのように、そのような方々を登録していくというのも一つの方法だと思います。ただ、私が現職だった頃に「卓球の指導を私にやらせてほしい」という方がいらっしゃいました。その方は、ある銀行の卓球部を指導していたそうで、指導には自信があるとのことでした。しかし、実際の練習は小学生では耐えられないような、実業団のような練習を行って、だんだんと子どもが減っていきました。なかには、その練習を乗り切って技能が上達した子もいましたが、随分、数が減ってしまいました。ですから、指導者の見極めも必要だと思います。</p>
<p>山下市長</p>	<p>今はスポ根では駄目でしょうからね。</p>
<p>長尾教育長</p>	<p>めざすところの選択肢も必要ということですね。 ありがとうございました。それでは、協議事項の3番「給付型奨学金事業について」の協議になりますが、事務局より説明をお願いします。</p>

教育総務課 十鳥課長	説明 (略)
長尾教育長	<p>ありがとうございました。それでは、事務局からの説明が終わりましたが、本議題について市長のお考えはいかがでしょうか。</p>
山下市長	<p>給付型奨学金制度は、新型コロナ対策という部分もありますが、では新型コロナが取まったらやらないのかということと違います。私が以前からやりたかった施策でして、なぜかという、思ったより簡単に進学を諦めてしまう子が多いなというのがあり、それは家庭に対して遠慮しているのもあると思います。私は、若い子は若いうちにできるだけいろいろな世界を見ておくべきだと思っています。例えば東京に行くにしても、それだけの学力があったとしても、1年間の学費と生活費を考えると途方もない額になります。私学になるとなおさらです。それを理由に、例えば関西や近場にしようというのは、子どもたちにとってどうなのだろうと思っていました。そういう子の背中を少しでも押せるのであれば、この事業の財源はふるさと納税で、三豊市の場合だいたい7億5千万円くらいの納税があることを考えれば、その中ではそれほど額のではありませんので、使っていけばいいんじゃないかなと思いました。もちろん、コロナ禍をきっかけにしてできた部分はありますが。ただ、85名の応募があるというのは今日（先ほどの事務局説明で）初めて聞きました。今は20名の枠しかありません。これを何とか広げたいと思っています。ただ、そのために財源を全部使うというよりも、むしろ賛同者を集めて、応援したいという企業様もいらっしゃるの、地域でその子たちを育てようという形にもっていきたいと考えています。</p> <p>これは、よくあるような「卒業後は三豊市に帰ってきて数年間は働かないといけない」というような条件は一切ありません。世界に羽ばたく子がいればどんどん羽ばたいてもらいたいですし。そういった縛りをつけるつもりはありません。彼らの夢を市もちゃんと応援してくれたというのをわかってもらうことが重要で、なんとなしに「だったら三豊市に帰ろうかな」と思ってくれたら良いかな、というつもりでやっています。</p> <p>ですから、皆さんも子どもたちに是非この制度を勧めただけたらと思います。所得制限等はメインではなく、子どもたちのやる気だけです。</p>
長尾教育長	<p>それでは委員の皆さまのご意見を頂戴したいと思います。</p>
細川委員	<p>わたしの叔父が大阪に住んでいて、ふるさと納税を三豊市にしていますが、いろいろ調べて、そのお金が奨学金に使われることを知って、本人も苦学生だったものですから、とても喜んでいました。</p> <p>市長のおっしゃったように、ふるさと納税をしようという人は全国にたくさ</p>

	<p>んいて、どこにしようかといろいろ情報を集めると思います。その中で、こういう使い道をもっともっとアピールしていけば集まる額も増えるだろうなと思います。</p>
山下市長	<p>対象を20人に絞り込むのは、申し訳ないくらい辛い作業だと思います。</p>
長尾教育長	<p>ここにいらっしゃる委員の皆さんが行うことになりますね。</p>
山下市長	<p>そうですね。何とか定員を増やしたいとは思っているのですが。</p>
永田委員	<p>この奨学金制度は、他の市町の方からも「すごいね、三豊は」と言われます。「市がバックアップしてくれていて素晴らしい」といろいろなところで聞きます。ただ一部では「そうはいっても結局、優秀な学生のみをピックアップするのでしょうか？」とおっしゃる方もいましたが、私は「そんなことはないと思うよ」と伝えたことがありました。自分がその制度に関わっていることは言えませんが、「市の方がきちんと精査して、一人でも多くの奨学生の将来を考えて選定している」と言うと、「そうなんですか」と納得していただけたことがありました。それくらい関心を持たれています。その方は、ご主人が高校の先生をされていて、身近で進学を断念する学生の話を知っていたので、特に関心があったのだと思います。他の県や市でも奨学金制度はありますが、資格の取得義務があったり、就職に関する制限があったりといろいろあるものですから、「まったくの給付型っていうのはすごいね」と言ってもらえます。そして、他の市町にも広がりつつあるというのも誇らしく思います。</p>
山下市長	<p>本当に広がってほしいと思います。この給付型の奨学金制度は、税金の使い方としての議論が以前からありました。ただ、教育への投資という意味では、三豊市だけが特別ではないので、他の市町にも広がってほしいと思っています。</p>
永田委員	<p>ただ、昨年の選考作業は大変でした。今回は85件もあるんですね。今年はさらに大変ですね。</p>
長尾教育長	<p>昨年に給付が決定した子が、たまたま知っている子でしたが、親子で物凄く喜んでくれて、私が何をしたわけでもないのですが、とても誇らしく嬉しい気持ちになりました。</p>
須山委員	<p>とても有意義な制度だと思います。予算がもう少し増えたら良いですね。</p>

松田委員	このコロナ禍で大学に通っている子がいるのですが、コロナ禍でアルバイトもできず、お小遣いもどのようにしているかわからないのですが、このような制度を利用してずっと学んでいけたら素晴らしいと思います。
長尾教育長	<p>ありがとうございました。続きまして議題の4番「その他」に入ります。本日、協議した内容以外で、何か協議や調整を行いたい事項はございますか。</p> <p>(提案なし)</p> <p>それでは、全ての議題が終了しましたので、ここで議長を降ろさせていただきます。長時間に渡りご協議いただきましてありがとうございました。これからの進行は事務局よりお願いします。</p>
地域戦略課 開口	それでは、閉会に移らせていただきます。閉会に際して山下市長より一言ご挨拶をお願いします。
山下市長	挨拶(略)
地域戦略課 開口	<p>ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、令和3年度第1回三豊市総合教育会議を終了させていただきます。長時間に渡りご協議いただきありがとうございました。</p>

三豊市総合教育会議規程第6条第3項の規定により、ここに署名する。

令和4年 4月 20日

三豊市長 山下 昭史

三豊市教育長 長尾 卓也